

判定委員長所感 平成19年度 認証評価を振り返って

37大学が「認定」、1大学が「保留」と判定

日本高等教育評価機構は、平成19年度 大学機関別認証評価を実施し、申請のあった38大学のうち37大学を「認定」、1大学を「保留」とする評価結果を発表しました。「認定」と判定されたうち1大学については、改善報告書の提出が「条件」とされました。



大学評価判定委員会
委員長 高倉 翔

「遵法精神」が求められる

平成16(2004)年度から導入された認証評価制度は、平成19(2007)年度で4年目になり、評価文化の確立などを課題としながらも、次第に定着しつつあります。当評価機構では、初年度は試行、本格実施は平成17(2005)年度からで平成19年度は3年目、その3年間に合計58大学の機関別認証評価を実施してきました。

平成19年度の評価結果は、①申請のあった38大学のうち37大学は、当評価機構の定める大学評価基準を満たしており「認定」と判定されました(認定期間は、平成19年4月1日から平成26(2014)年3月31日まで)。②ただし、「認定」と判定されたうち1大学に対しては、平成23(2011)年7月末までに「改善報告書」の提出が「条件」とされました。③また、1大学については、大学評価基準を満たしているかどうかの判定を「保留」し、平成20(2008)年4月1日から平成23年3月31日の期間内に、11の基準のうち2つの基準について「再評価」を申請することが「条件」として求められました。②③いずれの「条件」も、管理運営の基本に係わるものであり、判断の根拠として、とくに遵法精神が求められたといえます。

認証評価の重要な目的の一つは、「大学の改善・改革」を促進することです。この目的達成には、認証評価機関自らの「改善・改革」努力が前提とされます。当評価機構も、絶えず大学評価基準や評価実施大綱などの見直しに努めております。これまでの試行と2年間の実施

経験を踏まえて、平成19年度から大学評価基準の改訂をしました。主なものは、①「特記事項」の記述内容が基準に関係する場合は評価の対象としたこと②「基準項目」と「評価の視点」を整理・統合したこと③例示の削除や文言の整理をしたことなどです(平成20年度の大学評価基準改訂はなし)。

「意見申立て審査会」を開催

調査報告書案と評価報告書に対して、当評価機構では2回の「意見申立て」を行うことができます。平成19年度の場合、前者に関しては25大学から、後者に関しては5大学から申立てがありました。後者5大学のうち1大学については、判定委員会の下部組織である「意見申立て審査会」が初めて開催されました。また、公正な判断のため、平成20年2月には「基準に関する評定の判断例について」が判定委員会承認のもと作成されました。

自己評価報告書を見ますと、基準1の「建学の精神・大学の基本理念」について、若干の記述の混乱が見受けられました。私立大学の場合、「建学の精神」について記述すれば結構です。「大学の基本理念」は、一般に「建学の精神」を標榜していない国公立大学を想定したものです。このことは、当評価機構が「《私立大学》評価機構」ではなく「《高等教育》評価機構」であることと理解してください。

CONTENTS

判定委員長所感 平成19年度 認証評価を振り返って…1	レポート 委員会より……………6
インタビュー 認証評価を経験して……………2	平成20(2008)年度事業計画……………6
アンケート LOが評価を通じて感じたこと……………4	OPINION JIHEEに言いたい&聞きたい……………7
寄稿 認証評価がもたらしたもの	From jihee……………7
戸工業大学 学長 庄谷征美……………5	役員名簿&会員大学一覧……………8

Interview インタビュー 認証評価を経験して



愛知工業大学
学長 後藤 泰之氏

次の改革につなげるため 若手教職員が関わる体制に

— 受審を終えて、率直な感想をお聞かせください

本学は平成17（2005）年6月に受審を決め、すぐに問題点やチェック事項の洗い出し、規程の整備を開始しました。認定証を受け取ったのが今年の3月ですから、長かったですね（笑）。

評価結果では、人件費比率がやや高いことが指摘されたので、改善に着手しました。とは言え、本学は年齢層が高いので、今は財政的に少々がまんしてでも若手を採用していきたいと思っています。

全体的には、私たちが取り組んできたことが十分に評価されたと思います。この良い評価に甘んずることなく、今後も改善・改革を進めていくつもりです。

— 学内体制の方針はどのようなものでしたか

学内の全員に認証評価の重要性や意義を理解させることが第一だというのが、私の考えでした。

受審大学



田園調布学園大学
学長 井上 経敏氏

社会に存在をアピールするため 早期の受審を決意しました

— 受審後、学内に変化は見えますか

教職員の意識が変わったと思います。例えば、学内会議では「認証評価ではこういう指摘を受けている」という発言が出るようになりました。内にこもりがちな大学が、外部の視点、広い視野で物事を考えられるようになったのは、誠に喜ばしいことです。

評価報告書のコピーを全教職員に配付し、今年の入学式では新入生にもその内容と認定を得た意義を説明しました。教職員にも学生にも、社会的に認められている大学だという自信や誇りが生まれてきましたね。

評価報告書で指摘を受けたFD (Faculty Development) は、早期の実現に向けてすでに取り組みを始めました。学長直轄で「研究推進事業」という組織があるのですが、そこにFD推進を割り当てています。学外のFDセミナーには私も出席し、情報を集めています。

本学はすでに平成3（1991）年に自己評価委員会を立ち上げていましたので、学内の理解度はもともと高かったと思いますが、受審が決まってからは、役職者の集まる大学協議会などでは意識して私から発信し、各部署で広めてもらうようにしました。

実務レベルでは、若手の教職員がなるべく関わるように配慮しました。評価は受けた後が大切で、次の改革につなげるには若手の力が必要だからです。

そのかいあって、学部長・研究科長を中心に、全員で取り組めたので、受審後に教職員の連帯感が増しました。これは大変うれしい効果です。

— これから受審する大学へアドバイスをお願いします

自己評価報告書では、基準ごとの責任者を明確にし、文章の整合性をとることが重要だと思いました。本学では責任者に原案を作成してもらい、副学長と私で確認するという方式をとりましたが、何度も意見交換しながら作りあげましたので、相当な労力でした。出張にも原案を持ち歩いていただいほどです。

しかし、それほど身構える必要はないと思います。

毎年の自己点検など、すべきことをきちんとしていけば大丈夫ですよ。

— 受審のきっかけを教えてください

本学は平成14（2002）年に開設ですので、これまでの認定校の中では「最短コース」認定になります。完成年度から1年後の受審ですので、学内では「まだ早いのでは」という意見もありました。しかし、新しい大学として、社会的に自らの存在を主張したい、積極性をアピールしたいという思いが強く、今回の受審を決めました。

「認定」がもたらした影響は大きく、早期に受審して良かったと強く感じます。先日、海外の国際会議に招待された際には、海外の大学関係者に本学を理解してもらうきっかけにもなりました。

— 学内の体制について、アドバイスをお願いします

本学では、学長を中心にプロジェクトを立ち上げ、全教職員が参画するようになりました。自己評価報告書は、基準や部門間の整合性、文章の一貫性を保つため、基準ごとに置いた責任者と連携して、2人の副学長が執筆しました。LO（自己評価担当者）をはじめ、各担当者がそれをとともよくサポートしてくれたと思います。

認証評価は、学事の総点検、改善ができる絶好のチャンスです。全学あげて取り組んでください。

平成19（2007）年度の認証評価には、38大学の関係者と180人の担当評価員が評価活動に携わりました。この中から4人の方に、それぞれの立場からの感想やアドバイスをいただきました。受審大学からは「評価を改革に生かす」、担当評価員からは「より良い評価を追求する」という強い意思が伝わってきました。

※評価員の守秘義務の規程上、東評評価員、高橋評価員の担当大学名は掲載しません。



東 市郎 氏
北海道薬科大学 客員教授

大学の改善に協力したいという 前向きな気持ちで臨みました

— 評価チーム内で意見が異なることもあるのですか

私は幸運にも意見が対立して困ったという経験はありませんが、小さな見解の違いは、評価チーム内で議論を重ねていくうちに収れんできました。評価チーム全員の、評価を通して大学改善につなげていこうとする建設的な意欲のおかげでしょう。評価員はバックグラウンドがみんな違いますので、話をすること自体がとても新鮮で、勉強になりました。

— 面談ではどのようなことに注意しましたか

私たちは裁判官ではありませんので、大学の方が話しやすい雰囲気を作るように注意しました。大学を知りたい、改善に協力したいという姿勢を示すため、質問に対する回答を聞いたうえで、「それ以外に主張したいことはありますか」と聞くように努めました。

大学が当然だと思っていることでも、私たち

から見れば優れている点があります。弱みだと思っている点も、違う視点からは強みになることもあります。そこを見つけ出すのも評価員の仕事だと思います。

— 本務との時間調整について、ご経験とアドバイスを

日中は本務がありますので、評価の仕事は余暇の時間を充てることになります。

量的には書面調査に費やす時間が最も多かったと思います。自己評価報告書は、慣れないうちは2、3回読まないといけないこともあります。私は視点をはっきりさせてから読むことにしています。この大学の特色は何だろう、運営方針は、と目的を明らかにしながら読むと答えが拾いやすいです。

コメントや調査報告書などの執筆は、思い切って時間をとって集中的にするといいと思います。自分がこの大学のスタッフならどうするか、という意識を持てば、難しいことはありません。

評価員に選ばれた方々なら、所属大学における経験が生かれますので、それほど負担に思うことはないと思います。大学を良くするために協力するボランティアなんだという前向きな意識で臨むと、楽しい経験になるはずです。

担当評価員



高橋 宏 氏
東京国際大学 副学長

評価チーム、機構、受審大学と 「3つのチームワーク」を重視

— 書面調査はどのように進められましたか

私はいい意味で「批判的」に読んでいきました。「改善案が精神論で終わっていないか」「データと整合しているか」と注意しながら読むのです。

そして、書面調査で実態が見えない項目については質問をしました。的確な回答が出てこなければ、「その組織には誰がメンバーになっていますか?」「委員会設置の予定は?」など、具体的な質問に変え、それでもわからないものは実態がないと判断できるというわけです。

— 会議や実地調査の進行はいかがでしたか

第1回評価員会議でよくディスカッションをして、疑問点などをしっかり確認できたので、調査報告書作成までがスムーズだったと思います。ただし、3時間半と長時間かけたこの会議が、私としてはまだ不足に感じました。実地調査までに評価員が直接に顔を合わせて

意見交換できるのはここだけですので、もっと時間をかけてもいいのではないかと思います。

同様に、実地調査時に大学やホテルで行う第2回～4回評価員会議も、前年度に比べて全体の時間が減ったこともあり、いかに効率的に実施するかが重要です。

— 評価員としてお気づきの点をお聞かせください

評価を通して、チームワークが重要だと思いました。私の考えるチームとは①評価チーム内部②評価員と評価機構事務局③評価員と受審大学の3種類です。この3つのチームワークを常に意識し、スムーズな評価につなげることが大切です。

ひとつ気になったのは、別の評価機関で評価を経験された方は、その方法、考え方と混同する場合があります。評価機関によって言葉の使い方だけでなく考え方も違う点がありますので、団長や評価機構の担当者は、常に留意が必要です。

また評価員を出している大学は、上層部だけでなく同僚や部下、学生など全構成員の理解が得られるようにすべきだと思いました。私は休講にしなければいけない場合は、事前に学生にも説明しています。こういう広報は、評価機構にもお願いしたいと思います。

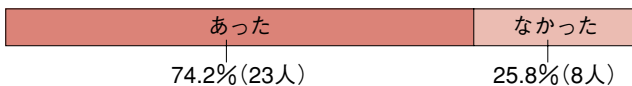
受審後変わったのは、教職員一人ひとりの改革に対する意識

平成19（2007）年度受審大学の「自己評価担当者（LO）」に、認証評価受審中、また受審後の感想を伺ったところ、改革・改善が進むと考えているのは9割近

いという結果になりました。

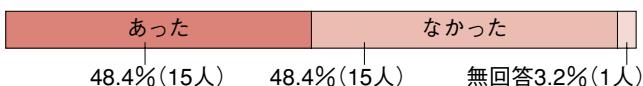
【アンケート実施時期：平成20（2008）年6月、回収率：81.6%（31/38人）】

自己評価の過程や実地調査などで、新たに気付いた貴大学の魅力はありましたか？



- ◆実地調査の準備の過程で、各学科の最先端の研究装置や組織的取り組みを見て、改めてその潜在力と発展性に魅力を感じた。
- ◆実地調査時の面談を依頼した学生と話している中で、研究や授業に対して予想以上に熱心に取り組んでいる様子が把握でき、学生一人ひとりの能力の高さを感じた。
- ◆卒業生との面談、自己評価報告書のまとめを通じ、小規模大学ならではの卒業生へのアフターケアの良さを感じた。
- ◆実地調査で、「(報告書には)書かれていなくても、良いところはたくさんありますよ」と言われた。現在は、埋もれている魅力を発掘し、良い点をさらに伸長させるという目標を設定している。

優れた点として評価されて、驚いたものはありますか？



- ◆併設校の校地売却などは実のところ「窮余の一策」の面がないではなかったが、「果敢な経営判断」との評価を頂戴したのは予想外だった。
- ◆基準4の「学生」で、授業科目「フレッシュマンアワー」が、就職活動の便宜を図る優れた点と評価された。取り組み自体が他大学の後塵を拝していると思っていたので驚いた。

LOを担当して良かった点は？

- ◆自己を点検し、評価することによって、高等教育機関としての社会的使命を一層強く自覚することができた。
- ◆普段のポジションでは「木を見て森を見ない」状況があるが、大学の全体像が把握でき、改善すべき点も掌握できて良い経験となった。
- ◆学長や担当の職員の方とおしゃべりする機会が持てたこと。楽しい時間であった。
- ◆実地調査に協力してくれた在学生や卒業生の真しな協力に感動した。
- ◆意外と(というのも何だが)学内がまとまる力があることを発見した。

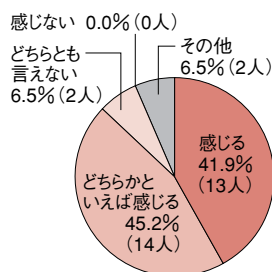
今後LOになる方にアドバイスをお願いします

- ◆①全体の流れをよく読んでおくこと②評価のポイントをよく理解しておくこと③報告書の執筆者、資料作成者、編集者、実地調査時の応答者の方々に、必要な時にポイント

を的確に示すこと④もしもの時の備えを講じておくこと⑤自分一人ですべてするのではなく協力者を信じさせること。きょううまくいきます。

- ◆自己評価報告書の作成段階から評価終了までに至るロードマップを常に意識し、そこから逆算して「今、何をすべきか」を判断、準備するとよい。作成資料は時系列にファイリングしておき、事後にそれを見た時、関係者以外でもワークフローが想像できるような作業工程が理想。
- ◆負担が増えるという受け身の考えではなく、大学改革のいい機会であるとして能動的に取り組み、その結果を次の発展に生かす意識を持つこと。

受審後、改革・改善は進んだ(進む)と感じますか？



「感じる」と回答した方の自由記述

◆初年次教育になお一層の努力を期待する旨の指摘があった。それを重く見て、教養教育・一般教育のあり方を全学的に検討するために委員会を設置し、鋭意審議を重ねている。

◆FD (Faculty Development)

- ◆に対する組織が確立され、その活動が強化された。施設面では、即座に誘導灯等の見直しが指示された。
- ◆学生面談で「トイレが寒い」との意見があったと知り、今春、学生トイレを全面改修した。
- ◆受審後、少なくとも意識面では一人ひとりが改革の重要性を感じるようになった。
- ◆自己評価報告書記載の「改善・向上方策(将来計画)」のどれをとっても、対外的にその実現を約束した事柄であり、画餅に終わらせてはならないとする気風が学内に醸成された。
- ◆第三者の評価に対して、受け身だった教職員の意識が、積極的に第三者にアピールしていかなければならないと変化した。また、本学の将来展望が改革によって開けることを自覚した。つまり改革へのアレルギーが減少した。

「どちらかといえば感じる」と回答した方の自由記述

◆指摘された多くの点は、理事長や学長などトップが意識するところとなり、改革・改善が提案しやすい雰囲気となっている。

「どちらとも言えない」と回答した方の自由記述

◆現段階では改善すべき点が共通意識となったばかりなので、今後の組織的取り組みに期待する。

「LOアンケート」いかがでしたでしょうか。たくさんの回答をいただき、このほかにも紹介したいご意見がたくさんありました。私どもJIHEEも、認証評価を通じて、受審大学のそれぞれの魅力探しや、改革・改善のお手伝いができるようこれからも努力してまいります。

寄稿 — 認証評価がもたらしたもの

認証評価では、認定を得ることそのものより、そのプロセスや結果を活用し、改革・改善に役立てることが重要です。平成18（2006）年度に受審した八戸工業大学から、改革の進捗状況を伝えていただきました。



認定を通して大学の将来に繋がる一步を踏み出す

八戸工業大学 学長 庄谷 征美

15年前から自己点検・評価活動を開始

八戸工業大学は、昭和31（1956）年創設の八戸高等電波学校を母体にして、昭和47（1972）年4月工学部機械・電気系3学科からなる単科大学としてその歩を開始した。現在は工学部6学科、感性デザイン学部1学科、大学院工学研究科前・後期課程4専攻を有する、卒業生1万5,000人余が輩出する大学へと発展してきている。本学は、自己点検・評価活動を私立大学としては早期といえる平成5（1993）年度から始めてきた実績がある。また、この7、8年は日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定基準を満足する様な教育を志向してきた。その結果、工学部4学科が認定を得ている。

東北地方で初めてJIHEEから認定

さて本学は、平成18（2006）年度に日本高等教育評価機構（以後「JIHEE」と略す）の機関別認証評価に名乗りを上げ、7月に自己評価報告書提出、10月末に実地調査を受けた。JIHEEは、私立大学の特性に配慮した評価を目指す唯一の認証機関で、大学の建学精神や基本理念などの自主性・個性を重視した評価が可能である。

また、大学の目的・目標達成度とその体制整備の状況評価、整合の取れた11の基準で、現状・自己評価・改善・向上方策のループを回す自律的な改善・改革に資する評価に大きな魅力と関心を持ったからである。

本学は幸いにも平成19（2007）年3月、東北地方の私学では初めてJIHEEの認定を得ることができた。「工業大学として相応しい学部、学科構成を持ち、特色ある教育研究を行っており、多くの優れた点を指摘でき、特に改善すべき点は見当たらない」との評価を頂いた。参考意見は、多様な学生に対応できる教育への更なる工夫、社会人・留学生・障害のある学生への支援の制度化と一般学生への周知、などの点であった。

直ちに将来計画委員会に諮問

JIHEEの認定は大変励みになったが、指摘点や参考意見を踏まえ、実地調査後直ちに将来計画委員会に、入試方法及び多様な学生への教育改善手法と組織改革について諮問した。

その答申の成果として、平成19年5月から、自己点検

評価、外部資金導入、知財化業務、地域貢献及び教職員研修などの業務を強化するため、大学改革室を社会連携学術推進室へ改組した。また、大学ユニバーサル化に対応し学修支援を含む基礎教育の充実と共通教育改善のため、教育研究戦略室を基礎教育研究センターへと改組した。

6月には、学則第1条に謳われた本学の目的達成のため、学長の補佐的審議・諮問機関として専攻主任会及び部長会の規程を改正し、これらを正式な大学組織に位置づけた。7月には、障害学生サポートスタッフ規定を制定し、学生支援のため運用を開始した。さらに12月には、外部評価体制の強化を図るため、本学外郭団体である教育研究後援会に評価機能を持って頂けるようお願いし、実現した。現在、改善・改革案を策定中の重要課題もあり、JIHEEの評価結果を効果あらしめるためには、理事会・教授会、学校関係者の理解と決意にかかっている。

改善の端緒となる評価を

本学は、このJIHEE認定を通して大学の将来に繋がる方向へと一步を踏み出した。評価に当たっては、本来のアクレディテーション面はもとより、各大学が自主的かつ自律的に、将来の方向を過たずに状況を改善する端緒となる、いわば経営・教育コンサルタント的な面を強化した点検・評価を期待したいと考えている。

「将来計画委員会」への諮問事項の概要

委員長	生物環境化学工学科長
副委員長	学務部長 入試部長
委員	法人常務理事 感性デザイン学部長 機械情報技術学科長 電子知能システム学科長 環境建設工学科長 建築工学科長 システム情報工学科長 図書館長 事務部長 法人総務課長
書記	庶務課長
	W.G.1（学部・学科改編など） リーダー・入試部長（メンバー・教職員13人）
	W.G.2（共通教育制度・基礎教育組織・社会的評価など） リーダー・学務部長（メンバー・教員18人）

主な諮問事項

- 1) 短期的検討事項（この1～2年でやるべきこと）
 - 適切な教員数や学科再編
 - 組織の改革（大学改革室・教育研究戦略室・基礎教育担当部署など組織の見直し）
 - 効果的な研究体制の構築（大学院の充実策など）
- 2) 中期的検討事項（5年位の間にやるべきこと）
 - 学部・学科再編の中期デザイン・計画・実施
 - 教員評価の意義付けと方法
- 3) 長期的検討事項（10年位でやるべきこと）
 - 学部・学科再編の長期戦略

レポート 委員会より

当機構では、認証評価に関するさまざまな要素について改善策や内容を検討するため、いくつかの委員会を組織しています。各委員長・副委員長から、方針や状況をお知らせします。



評価システム改善検討委員会

委員長 瀧澤 博三
(日本私立大学協会附置私学高等教育研究所主幹)

認証評価制度が始まってから5年目を迎え、すでに7年のサイクル（第1クール）の後半に入りました。この間、当委員会では、さまざまな課題を検討し、評価基準の見直しや、評価スケジュールの改善などを行ってまいりました。

日本高等教育評価機構では今年度で4回目の認証評価実施を迎えています。これまで蓄積してきた経験や、中教審の答申など大学改革の新しい動向も踏まえて、第2クールが始まる平成23（2011）年度に向けて改善すべき点の検討を始めました。受審する側・評価する側の双方にとってわかりやすい、簡素かつ効率的な基準づくりを目指していきます。



評価員養成検討委員会

委員長 羽田 積男
(日本大学文理学部教授)

大学の第三者評価にとって、評価員の質は評価機関の生命線です。そのため、評価機構では毎年、担当評価員と評価員候補者に対し研修会を行い、必ず出席していただいています。私たちは主に、その内容や改善策を検討しています。

今年度の「認証評価担当評価員セミナー」では、実際の自己評価報告書のサンプルを例示し、評価の手法を具体的に示し、また委員を中心とした経験豊かな評価員によるパネルディスカッションを行うなど工夫を凝らしました。これらは当委員会で検討された改善策に基づくもので、それをすぐに反映させることのできる、フットワークのよい委員会です。今後も評価員のレベルアップを目指して検討を続けてまいります。



短期大学認証評価検討委員会

副委員長 田中 義郎
(桜美林大学総合研究機構長・教授)

短大はすでにいくつかの団体が認証評価を行っていますが、当機構では特に短大と大学が同法人内にある場合に注目しています。評価を受けるにはかなりのコストとマンパワーが必要です。同法人なら、咲く花は違いますが根は同じですから、同時に見ることで受審側の負担を軽減できればと考えています。

また、日本高等教育評価機構という名称である以上、大学・短大どちらの評価もできなければならないと思います。日本の高等教育全般の質を担保する、支援する体制を整えるという意味でも、その体制を完成させてから第2クールを迎えたいですね。



専門職大学院認証評価検討委員会

副委員長 白澤 宏規
(東京造形大学理事・教授)

当委員会は、専門職大学院（ファッション分野）の認証評価に関わる評価システムと評価基準を策定することを目的としております。現在は第1回委員会を開催したばかりで、「ファッション」や「ファッション分野」という言葉の意味する内容（定義）から始め、ファッション系教育機関や業界内の現状について知見を深め、評価に関わる委員会として共通認識を得ようとする段階にあります。

この分野の教育課程には、「クリエイション」と「マネジメント」の2つの教育軸があります。社会的な視野の下でどのような評価システム・評価基準を策定するのが、主な課題となっています。

平成20（2008）年度事業計画

1.私立大学等の教育研究活動等の評価事業

平成20（2008）年度は59大学、同21（2009）年度は約70大学（平成20年9月申請）の評価を実施する予定です。また、大学評価セミナー、平成21年度評価の説明会、担当評価員セミナー等を開催します。

2.評価員の養成事業

評価員登録は920人ですが、平成22（2010）年度までの申請大学の急増及び不足分野の補充のため、評価員候補者をさらに募り、研修等を経た後に評価員の委嘱を行います。

3.大学評価に関する調査・研究

評価機関として一層の充実を図るため、システムや評価員養成等に係わる調査研究を行い、恒常的に改善等を進めます。また、短期大学及び専門職大学院（ファッション系）の認証評価基準等の検討も行うほか、7

月には評価充実協議会を開催します。

4.私立大学等の教育研究活動の評価に対する支援事業

大学から要請があれば、指導のための要員を派遣する等の相談業務を実施します。

5.大学評価に関する広報及び啓発活動

活動状況及び評価結果等を公表するとともに、大学評価の意義や内容等を広く社会に理解を得るため、機関誌の刊行、ホームページの維持管理、公開講演会の開催を計画・実施します。

6.公益法人制度改革への対応

平成20年12月1日施行の改革三法に基づく公益財団法人への移行を前提に、公益認定基準に適合するための組織体制、会計制度、定款、諸規則等について検討を行います。

平成19（2007）年度の受審大学からは、評価を通じて色々なご意見・ご質問をいただきました。その中から数多く寄せられたもの、特徴的なものについて紹介し、当機構の現在の見解をお知らせいたします。

大学の規模に差があるにも関わらず、自己評価報告書・本編のページ数の上限が一律に100ページ以内というのは、適切ではないと思うのですが？

JIHEE 大学全体の評価を行いますので、学生数などの規模の差はそれほど大きな要素にはなりません。また、一般の方にも読んでいただくという観点からページ数を100ページ以内に限定しております。なお、「特記事項」は原則20ページ以内で自由に記述でき、関連の基準項目において評価の対象になります。

受審年度の5月1日現在の状況で自己評価報告書を記載することになっていますが、それでは提出期限（6月末日）に間に合わないのではないのでしょうか？

JIHEE 学生数などの状況がまとまる時期として5月1日現在と指定しております。あらかじめ予定原稿を作っておき、5月1日現在のデータで分析や文章を調整する大学が多いようです。

データ編は作成するための注釈が不十分で、膨大な時間がかかってしまいました。詳細な作成要領を作る予定はありますか？

JIHEE 作成要領はありませんが、「受審のてびき」に作成上のよくある質問・回答をまとめた「FAQ（よくある質問）」というコーナーを設けておりますのでご活用ください。またご質問、ご相談は随時承っております。

自己評価担当者説明会について、1回きりでは不十分だと思います。

JIHEE 説明会は1回ですが、質問や相談は随時受け付けております。ご遠慮なく当機構担当者までメールまたは電話にてご連絡ください。また、「受審のてびき」の巻末に「FAQ（よくある質問）」というコーナーを設けています。

自己評価担当者説明会が評価受審年度の1月では準備が間に合いません。前年の10月ごろが適当だと思います。

JIHEE 9月末～12月は当該年度の評価の実地調査を行っているため、日程調整が難しいのが実情ですが、今後の課題として検討します。

評価員が所属大学での経験則や主観に基づいて評価してしまうことはないのでしょうか。大学の多様性は尊重されるべきだと思います。

JIHEE ご意見のとおり、私立大学の多様性は尊重されるべきであり、このスタンスで評価を行っていただくよう「担当評価員セミナー」などをお願いしております。今後もさらに周知徹底してまいります。

調査報告書案・評価報告書案に対する「意見申立て」は、受付期間がどの大学も同じですが、地方の大学の場合、郵送日数を考慮すると検討する時間が少なく、不公平です。何らかの配慮をしていただけませんか？

JIHEE 現状は情報保護の観点から郵送のみの通知・受付にしています。同様のご意見を複数いただいておりますので、今後の課題として検討します。

From jihee

JIHEEからの連絡・報告などを掲載するコーナーです。

■お知らせ

評価受審大学の方へ

◆自己評価報告書の提出期限の変更について

すでにご案内のとおり、自己評価報告書の提出期限が、6月末日までに変更となっております。平成20（2008）年度の評価から適用しています。

評価員の方へ

◆平成17（2005）年度委嘱評価員の再委嘱について

平成17年度に委嘱した評価員の任期が平成20年9月に満了します。このため再委嘱の依頼文書を発送する予定です。再委嘱にご協力ください。

◆異動・退職の際にはご連絡ください

異動や役職の変更、または退職された際には、当機構までご連絡をお願いいたします。

■平成19（2007）年度活動報告

◆平成19年8月～平成20年3月

平成19年度認証評価を実施（38大学）

◆6月14日・18日（東京・大阪）

「大学評価セミナー」を開催

◆7月3日・4日・9日（東京・大阪・福岡）

「担当評価員セミナー」を開催

◆7月30日

「会員協議会（評価充実セミナー）」を開催

◆平成20年1月22日・24日（東京・大阪）

「自己評価担当者説明会」を開催

◆2月25日・28日（東京・大阪）

「評価員候補者セミナー」を開催

◆3月6日

「評価員実務研究会（団長経験者意見交換会）」を開催

役員名簿&会員大学一覧

平成20(2008)年6月現在

■役員名簿

●理事(18人)

理事長
佐藤登志郎 (北里大学名誉教授、学校法人北里学園顧問)
副理事長
高倉 翔 (筑波大学・明海大学名誉教授、明海大学学事顧問)
専務理事
原野 幸康 (財団法人日本高等教育評価機構 専務理事)
理事
石田 恒夫 (広島経済大学理事長)
大沼 淳 (文化女子大学理事長・学長、日本私立大学協会会長)
北島 義俊 (大日本印刷株式会社代表取締役社長)
黒田 壽二 (金沢工業大学学長・総長)
小出 忠孝 (愛知学院大学学長・学長)
後藤 淳 (愛知工業大学理事長・総長)
佐藤東洋士 (桜美林大学理事長・学長)
高柳 元明 (東北薬科大学理事長・学長)
中村 量一 (中村学園大学理事長・学長)
西村 駿一 (別府大学理事長)
野崎 弘 (教職員生涯福祉財団理事長)
野田起一郎 (近畿大学名誉教授、学校法人近畿大学顧問)
廣川 利男 (東京電機大学学長)

森田 嘉一 (京都外国語大学理事長・総長)
森本 正夫 (北海道大学理事長、北海道商科大学学長)
●監事(3人)
齋藤 力夫 (永和監査法人代表社員)
塚本 邦彦 (大阪芸術大学理事長・学長・学院長)
中原 爽 (日本歯科大学理事)
●評議員(33人)
井尻 昭夫 (岡山商科大学理事長・学長)
大西 良三 (中部大学理事長・学長)
大橋 秀雄 (工学院大学理事長)
沖永 莊一 (帝京大学グループ学主)
加賀谷淳子 (日本女子体育大学客員教授・名誉教授)
香川 達雄 (女子栄養大学理事長)
北古賀勝幸 (熊本学園大学理事長)
小出 秀文 (日本私立大学協会事務局長)
小林 素文 (愛知淑徳大学理事長・学長)
佐野 博敏 (大妻女子大学理事長)
島田 輝子 (文京学院大学理事長・学長)
末岡 熙章 (名古屋経済大学理事長・学園長・学長)
杉本 拓 (北星学園大学理事長)
高井 伸夫 (高井伸夫法律事務所所長弁護士)

瀧澤 博三 (日本私立大学協会附置私学高等教育研究所主幹)
田中 郁三 (東京工業大学名誉教授)
谷岡 一郎 (大阪商業大学理事長・学長)
東松 孝臣 (学校法人常翔学園名誉理事)
戸田 安士 (学校法人金城学院顧問)
永田 治雄 (鹿児島国際大学理事長)
西岡 信雄 (大阪音楽大学理事長)
野原 明 (文化女子大学教授、同附属杉並中学高等学校校長)
原田 嘉中 (千葉商科大学理事長・学長)
平尾 和義 (学校法人酪農学園前理事長)
福井 直敬 (武蔵野音楽大学理事長・学長)
福原 隆善 (佛教大学学長)
朴澤 泰治 (仙台大学理事長・学長)
細山田明義 (昭和大学学長)
村崎 正人 (徳島文理大学理事長・学長)
柳谷 透 (八戸工業大学理事長)
山本 襄治 (聖イグナチオ教会助任)
吉田 泰輔 (国立音楽大学前理事長)
六鹿 正治 (株式会社 日本設計代表取締役社長)

■会員大学

北海道 旭川大学 札幌国際大学 千歳科学技術大学 道都大学 函館大学 北翔大学 北星学園大学 北海道大学 北海道商科大学 北海道医療大学 北海道工業大学 北海道薬科大学 酪農学園大学 青森県 青森中央学院大学 東北女子大学 八戸工業大学 岩手県 富士大学 盛岡大学 宮城県 尚綱学院大学 仙台大学 東北工業大学 東北生活文化大学 東北文化学園大学 東北薬科大学 秋田県 ノースアジア大学 山形県 東北芸術工科大学 福島県 いわき明星大学 郡山女子大学 東日本国際大学 福島学院大学 茨城県 筑波学院大学 栃木県 足利工業大学 国際医療福祉大学 作新学院大学 群馬県 共愛学園前橋国際大学 群馬社会福祉大学 高崎商科大学 埼玉県 浦和大学 共栄大学 埼玉医科大学 埼玉学園大学 十文字学園女子大学 尚美学園大学 女子栄養大学 駿河台大学 西武文理大学 東京国際大学 東邦音楽大学 日本工業大学 日本薬科大学 人間総合科学大学 平成国際大学 武蔵野学院大学 明海大学 ものづくり大学 千葉県 愛国学院大学 江戸川大学 川村学園女子大学 神田外語大学 聖徳大学 清和大学 千葉科学大学 千葉経済大学 千葉工業大学 千葉商科大学 千葉商科大学 帝京平成大学 東京成徳大学 日本橋学館大学 麗澤大学 東京都 上野学園大学 桜美林大学 大妻女子大学 嘉悦大学 北里大学 国立音楽大学 国士館大学 昭和大学 昭和薬科大学 杉野服飾大学 聖母大学 高千穂大学 多摩大学 帝京大学	東京音楽大学 東京家政学院大学 東京工科大学 東京工芸大学 東京純心女子大学 東京女学院大学 東京女子体育大学 東京聖栄大学 東京造形大学 東京電機大学 東京福祉大学 東京富士大学 東京未来大学 東京理科大学 桐朋学園大学 日本医科大学 日本歯科大学 日本獣医生命科学大学 日本女子体育大学 日本体育大学 文化女子大学 武蔵野大学 武蔵野音楽大学 目白大学 神奈川県 神奈川工科大学 鎌倉女子大学 産業能率大学 松蔭大学 昭和音楽大学 洗足学園音楽大学 田園調布学園大学 横浜商科大学 新潟県 長岡大学 新潟医療福祉大学 新潟経営大学 新潟国際情報大学 新潟青陵大学 富山県 富山法科大学 桐朋学園大学院大学 富山国際大学 石川県 金沢学院大学 金沢工業大学 金沢星稜大学 金城大学	北陸大学 福井県 仁愛大学 福井工業大学 山梨県 帝京科学大学 山梨学院大学 長野県 長野大学 松本大学 松本歯科大学 岐阜県 朝日大学 岐阜経済大学 岐阜女子大学 中京学院大学 東海学院大学 静岡県 静岡英和学院大学 静岡産業大学 静岡福祉大学 静岡理工科大学 愛知県 愛知学院大学 愛知学泉大学 愛知工科大学 愛知工業大学 愛知産業大学 愛知淑徳大学 愛知東邦大学 愛知みずほ大学 桜花学園大学 金城学院大学 椋山学園大学 星城大学 大同工業大学 中部大学 東海学園大学 同朋大学 豊橋創造大学 名古屋音楽大学 名古屋外国語大学 名古屋学芸大学 名古屋経済大学 名古屋芸術大学 名古屋産業大学 名古屋商科大学 名古屋女子大学	名古屋造形大学 名古屋文理大学 日本福祉大学 人間環境大学 名城大学 三重県 鈴鹿医療科学大学 鈴鹿国際大学 滋賀県 安芸造形大学 聖泉大学 びわこ成蹊スポーツ大学 京都府 京都外国語大学 京都嵯峨芸術大学 京都情報大学院大学 種智院大学 花園大学 佛教大学 平安女学院大学 明治国際医療大学 大阪府 追手門学院大学 大阪大谷大学 大阪音楽大学 大阪河崎ハビリテーション大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪芸術大学 大阪工業大学 大阪歯科大学 大阪樟蔭女子大学 大阪商業大学 大阪成蹊大学 大阪体育大学 大阪電気通信大学 大阪人間科学大学 関西医療大学 関西外国語大学 関西福祉科学大学 四條畷学園大学 四天王寺大学 摂南大学 摂南大学 帝塚山学院大学 常盤会学園大学 羽衣国際大学	東大阪大学 プール学院大学 森ノ宮医療大学 兵庫県 芦屋大学 大手前大学 関西国際大学 関西福祉大学 関西国際大学 関西福祉大学 甲子園大学 甲南女子大学 神戸学院大学 神戸芸術工科大学 神戸国際大学 神戸山手大学 宝塚造形芸術大学 兵庫大学 奈良県 奈良大学 奈良産業大学 鳥取県 鳥取環境大学 岡山県 岡山学院大学 岡山商科大学 岡山理科大学 倉敷芸術科学大学 くらしき作陽大学 山陽学園大学 中国学園大学 美作大学 広島県 呉大学 比治山大学 広島経済大学 広島工業大学 広島国際大学 広島国際学院大学 広島文教女子大学 山口県 宇部フロンティア大学 徳山大学 梅光学院大学 徳島県 四国大学 徳島文理大学 香川県 四国学院大学	高松大学 福岡県 九州栄養福祉大学 九州共立大学 九州国際大学 九州情報大学 久留米工業大学 西南女学院大学 聖マリア学院大学 第一薬科大学 筑紫学園大学 中村学園大学 福岡医療福祉大学 福岡経済大学 福岡工業大学 福岡歯科大学 長崎県 長崎ウエスレヤン大学 長崎国際大学 長崎総合科学大学 熊本県 九州看護福祉大学 熊本学園大学 熊本保健科学大学 尚綱大学 崇城大学 平成音楽大学 大分県 日本文理大学 別府大学 宮崎県 南九州大学 宮崎国際大学 宮崎産業経営大学 鹿児島県 鹿児島国際大学 鹿児島純心女子大学 志学館大学 第一工業大学 沖縄県 沖縄キリスト教学院大学 名城大学
---	--	---	--	---	---

(計288大学)

PeeR(ピア) 第3号

◆平成20年7月28日発行

◆編集人 原野 幸康

◆発行 財団法人 日本高等教育評価機構

◆所在地 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-11 第2星光ビル2階

TEL.03-5211-5131 FAX.03-5211-5132 URL <http://www.jiheer.or.jp>

★「PeeR(ピア)」に関するご意見・

ご感想はこちらへお寄せください

hyoukaiyou@jihее.or.jp

(件名を「ピア」としてください)



左右の流線はく地球>と、
両手で作るく輪>をイメージ
しています。大学と社会を
結ぶ機構でありたいとの想
いを込めました。